

ヤン・シュヴァンクマイエル、「最後の長編劇映画」宣言。

コオロギ夫妻にフンコロガシ、ハチ、幼虫に寄生虫——

社会人劇団の演じるチャベック兄弟の戯曲『虫の生活』は、虫も死ぬが人も消える。



提供・配給：ザジフィルムズ/クープ
www.zaziefilms.com/insect/

日本では10年ぶりの特集上映! チエコの老錬金術師ヤン・シュヴァンクマイエルが放つ 最新3作品、ついに公開!

1988年の『アリス』以来、『ファウスト』『悦楽共犯者』『オテサーネク』『ルナシー』『サヴァイヴィングライフ』と、これまで6本の長編を発表してきたチエコのシュルレアリストにして、アニメーション&映画作家ヤン・シュヴァンクマイエル(現在90歳!)が、「最後の長編劇映画」と宣言して2018年に完成させた『蟲(むし)』、ついに一般公開! 加えて、作家のこれまでの人生、先立った妻エヴァとの思い出を振り返るドキュメンタリー『錬金炉アタノール』(2020)、さらにシュヴァンクマイエルが世界中から集めた奇怪なコレクションを約2時間、ひたすら見せ続ける驚愕の映画『クンストカメラ』(2022)も同時公開!

蟲(むし)

シュヴァンクマイエルのシュルレアリストとしてのアプローチが極まった集大成的な一作!

チャベック兄弟の有名な戯曲『虫の生活』の第二幕「捕食生物たち」に取り組み、小さな町のアマチュア劇団。遅刻や欠席するメンバーたちのやる気の無さに、コオロギ役兼任の演出家は怒りが収まらない。不穏な空気でもリハーサルが進むが、やがて劇の展開と役者たちの行動が交錯し、ついに舞台上に惨劇が訪れる! 演劇の中の物語、それを演じる役者たちの素の姿、そして『蟲』のメイキングも同時進行で提示される斬新な3層のメタ構造。そして例によってアニメーション技法も使われ、また本物の虫たちが目を覆いたくなるほど登場! 製作時には資金を補うためのクラウドファンディングが行われ、シュヴァンクマイエルを師と仰ぐクエイ兄弟やギレルモ・デル・トロも大々的に協力、日本のファンも含め世界中から多くの出資が得られて完成した「最後の長編劇映画」。

監督:ヤン・シュヴァンクマイエル 2018年/チェコ・スロバキア/チェコ語/98分/原題:Hmyz
字幕翻訳:北村広子 字幕監修:ベトル・ホリー 字幕協力:イメージフォーラム

錬金炉アタノール

老境に達したシュヴァンクマイエルの現在と過去を捉えたドキュメンタリー

創作上のパートナーでもあった亡き妻エヴァ・シュヴァンクマイエロヴァーの想い出、長年、製作を支えてきたプロデューサー、ヤロミール・カリスタとの愛憎入り交じる関係、参加しているシュルレアリスト集団の定例会、怪しげな呪物や作品の制作風景、展覧会の準備や講演、そしてスーパーで買物をする日常の姿など、あらゆる側面が赤裸々に映し出される。彼の全貌を把握する「入門編」とも言える1本。

監督:ヤン・ダン・アダム・オルハ 出演:ヤン・シュヴァンクマイエル 2020年/スロバキア・チェコ/英語・チェコ語/117分/原題:ALCHYMICKÁ PEC
字幕翻訳:前田理子、御西あき、高山智絵(JVTA) 字幕監修:ベトル・ホリー 字幕協力:ひろしまアニメーションシーズン

クンストカメラ

世界中から集めたコレクションや自身のオブジェが映し出される記録映画

チェコの南西部ホルニー・スタニコフにあるお城と旧穀物庫。2時間弱、世界中から集めた絵画や彫像、動物の剥製や貝殻、自身や妻の作ったオブジェなど、一般の価値基準とは無縁の不思議なコレクションがヴィジュアルディの「四季」に乗って、ナレーションもなしに延々と映し出される。シンプルに撮影されたもののように見えて、編集、床やドアの軋む効果音にシュヴァンクマイエル臭が強烈に香る一作。

監督:ヤン・シュヴァンクマイエル 2022年/チェコ/115分/原題:Kunstkamera

ご注意:虫が出ます!(大量に)